

書評

[評者]

森 蘭子

森こどもクリニック



漢方♥外来ナンパ術

新見正則，千福貞博，坂崎弘美 著

●B6変型判 頁160 2017年

定価：本体2,000円＋税

[ISBN 978-4-88002-408-0]新興医学出版社刊

本書のタイトルを見て、ナンパなどと不謹慎！と感じる方も多いことだろう。さて、本書の内容が真面目か不真面目か読み進めてみよう。

著者は漢方を愛する三人のカリスマ医師。

トップバッターの坂崎弘美先生は、人気小児科医として、多くのママたちの心をつかんでいる。小児を診るための注意点や、教科書には載っていない上手な外来トークの実例が、小児科ならではの微笑ましいエピソードを交えて、テンポ良く書かれている。新米小児科医をはじめ、小児を診るのが苦手、お母さんとの会話が億劫だ、という内科や総合診療科ドクターにぜひ参考にしていただきたい。

二番手は、千福貞博先生。その魅力的な声と流れるようなトークで女性ファンの多い有名ドクターである。話題の引き出しが豊富で、その博識ぶりに驚く。相手に合わせた、比喩や実例、故事や逸話を引用しての説明で、なるほどと、納得してしまう。文系科目が苦手だった私には、到底まねできない外来スタイルである。次はどんな話題が出てくるのだろう、ワクワクしてしまう。千福先生との会話を楽しみに、外来に通う患者さんの気持ちがよくわかる。

トリを務めるのは、新見正則先生。ちょっと強引(失礼！)かと思われる外来トークに、ドキッとしてしまう。一つ一つの言葉だけを抜き出してみると、えっ、そんなこと言ってよいの？と驚くようなセリフだ。軽

妙だが、患者さんの家族背景や、一人一人の性格や様々な事情を考慮し、その人の人生をも見据えた、選ばれた重い言葉なのである。漢方や東洋医学の見方も、しっかりとした理論展開で、明解である。

三者三様の外来トーク。共通項は、愛と漢方である。患者さんへの愛情深い外来トークは、人を引き付ける魅力に満ちている。そして、漢方。漢方を使う医師は、色々な手段を駆使して、患者さんをよくしたい、満足してほしい、という気持ちをもって診療をしている。本書は、そんな情熱あふれる漢方大好きドクターの日々の診療が目につかぶような内容である。漢方初心者には、漢方を駆使した外来のお手本として、またベテラン医師には、自分の診療スタイルとの共通点や違いを見出し、自身の診療を振り返る良い契機となることだろう。タイトルを見てドキッとして手に取ったら、その面白さにどんどん読み進め、読み終わると、明日の外来に希望を持てる内容である。そうそう、私自身も三人のドクターの、患者さんに向き合う真摯な姿勢にひきつけられ、本書の魅力にナンパされてしまった。

この本は、味わい深いスイーツのような本である。漢方のメインディッシュでお腹がいっぱいになったら、別腹でスイーツを味わって欲しい。そして、医師の醍醐味ともいえる、患者さんとの素敵な信頼関係を築く足がかりにしてほしい。もしかしたら、このスイーツこそが、現代の医療に不可欠な栄養素なのかもしれない。